

これを聞くと楽しくなる乳腺超音波検査

物理苦手女子でも理解できた超音波の基礎から最新技術まで

◎柏倉 由美

済生会松阪総合病院 乳腺外科

柏倉由美

乳腺は探触子を当てやすく、また検査を行う上で必要な解剖の理解も特に複雑なものはない。一方で、簡便に行える超音波検査が、診断に占める役割は大きい。検査者にとっては、微小病変や分かりにくい病変を見落とさないように検査を行うことだけでなく、見えた病変がどのようなものであるかを考えながら検査を行うことが、おもしろくもあり、またプレッシャーともなる。

超音波診断装置が進化し、**B-mode** は高解像度化が進んだ。カラードプラ・エラストグラフィにより血流や硬さの情報も得られるようになった。以前よりも見やすくなり、診断に役に立つ情報が得られるようになった。けれども、それでも「見えにくい」「分かりにくい」と感じる症例に遭遇することがある。

検査に携わっている方は、超音波の基礎を今までに一度は勉強されているはずである。しかし、それらの知識が「実際検査をする上でどのように役立っているのだろうか？」と思ったことはないだろうか。診断装置が複雑化する中で、基礎・基本を知っていることが、特に見えにくい・分かりにくい病変を見る努力に役立っていると感じるときがある。釈迦に説法ではあるが、超音波検査の基礎を振り返ってみたい。

乳腺超音波診断の基本は **B-mode** であるが、カラードプラ・エラストグラフィから得られる情報で、さらに **B-mode** 画像が理解しやすくなることも少なくない。最近では **comprehensive ultrasound** という概念もある。カラードプラ・エラストグラフィを上手に使いえば診断精度は上がるが、使い方や解釈に問題点を見つけることもしばしばある。カラードプラ・エラストグラフィの使い方・注意点についてもお話する。